

平成26年度の川部会の活動進捗報告（案）

1. 川部会の目標とテーマ（課題）

川部会の3ヶ年（平成25年度～27年度）の活動テーマを以下に示す。

(3ヶ年の目標)

- 矢作川本川では、**現況把握・評価（カルテ作成）の取り組みを実践**しながら、**将来のあるべき姿（絵）を描く**
- 家下川では、実施中の活動の**取り組み効果を確認**し、**将来のあるべき姿（絵）を描く**とともに、**他の場所や他の支川への展開方法を検討**
- 地先の課題では、**関係機関調整の場の提供**と**（仮）専門家リストの作成・試行的運用、個別課題の情報共有、解決の方向性検討**の進展

<テーマ>

テーマ1：
生き物の棲みやすい
川づくり（上下流問題）

テーマ2：地先の課題

<解決手法>

本川モデル：課題と解決の方向性の検討、個別課題の取り組み

家下川モデル：課題と解決の方向性の検討、個別課題の取り組み

地先モデル：（仮）専門家リストの作成、個別課題の取り組み

2. 今年度の活動実績

本川モデル、家下川モデル、地先の課題モデルの全8回のWGを実施し、現地調査と意見交換を行った。今年度の活動実績は、以下に示すとおりである。

今年度の活動実績一覧

日時	場所	参加人数	活動内容
5月30日(金) 18:00-20:40	・豊田市職員会館	25名	第17回WG (家下川モデル) ・今年度の活動計画 ・家下川湛水防除事業について
6月27日(金) 13:00-17:00	・渡合、白浜、加茂川 ・豊田市職員会館	23名	第18回WG (本川モデル) ・渡合地区、白浜工区 ・加茂川合流点段差について
8月25日(月) 13:00-16:30	・矢作川本川 ・豊田市職員会館	28名	第19回WG (本川モデル) ・瀬淵の現地調査 ・（仮）保全エリアマップについて
8月29日(金) 13:00-19:00	・岡崎市矢作川支所 ・岡崎市ホテル学校	17名	第20回WG (地先モデル) ・活動団体ヒアリング、アンケート ・専門家リスト
9月26日(金) 15:00-17:00	・豊田市職員会館	19名	第21回WG (家下川モデル) ・段差解消に関わる関係者との意見交換
10月31日(金) 18:00-20:00	・豊田市職員会館	23名	第22回WG (本川モデル) ・久澄橋下流の瀬について ・豊田市矢作川河川環境活性化プラン検討委員会
11月14日(金) 13:30-16:50	・常磐学区市民ホーム ・豊田市職員会館	13名	第23回WG (地先モデル) ・活動団体ヒアリング、アンケート ・専門家リスト
12月22日(月) 18:00-20:00	・豊田市職員会館	23名	第24回WG (全体) ・矢作川の総合土砂管理について ・H26活動のとりまとめに向けて

3. 各テーマの活動進捗状況

今年度の活動進捗状況について、川部会のテーマに沿って以下にまとめる。



(1) 本川モデル

■今年度活動により分かったこと

① 微地形の多様性（良い瀬・淵、ワンド）について

《微地形の多様性の実態》失われつつある瀬の現状を確認、矢作川漁協との意見交換をスタート

- 久澄橋下流の河道内の地形状況について、大同大学、国交省による現地測量を実施。
- 矢作川漁協とともに、失われつつある瀬の状況を現地確認して課題を共有し、良好な河川（瀬淵）の状態に回復させるための方向性について意見交換が行われた。
- 白浜工区では、大同大学による洪水規模によって変化する地形状況のモニタリングがスタート。地形の変化特性や土砂の分布の 測量・土砂分析による地形状況や土砂分布等の把握、自噴池の湧出量やヤナギの分布状況などの把握がなされている。
- 豊田市矢作川河川環境活性化プラン検討委員会の設立・現在の検討状況の報告を受けた。



久澄橋から望む下流の瀬の状況（矢作川漁協より説明）



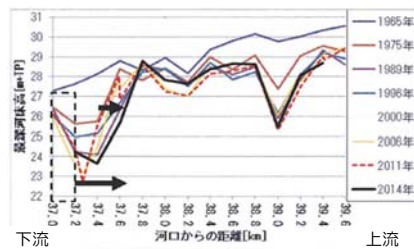
白浜工区のせせらぎの状況

《提案・確認事項》

- 久澄橋下流の滞筋の横断・縦断形状を把握した結果、最深河床が低下傾向にあるのは、37.0k から 37.6k 付近と 39.4k 地点で、その他の区間では最深河床の河床低下は見られない。
- 39.4k 地点については、応急的な対策が必要であることを確認した。（今後、応急的な対策を実施予定）当区間については、今後も継続してモニタリングをしていく必要があることを確認した。

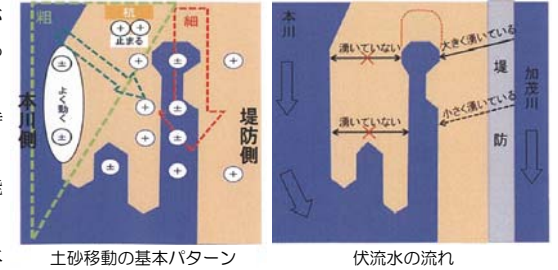


矢作川中流、測量点（上流）



河床縦断（最深線、枠内＝工事区域）

- 白浜工区では、土砂移動の傾向が把握され、ワンドを維持するための1提案がなされた。
- 自噴池の湧水については、平常時に継続していることが確認され、加茂川を起源としている可能性が高いことがわかった。
- ヤナギの繁茂が顕著になると高水敷化する可能性があることから、早期に伐採することを提案した。



土砂移動の基本パターン

伏流水の流れ



ヤナギの繁茂状況（H26.7.24）

- 豊田市矢作川河川環境活性化プラン検討委員会では、平成 26～27 年度にプランを策定する予定であり、情報共有・意見交換を継続して、矢作川のあるべき姿の検討を進めていくこととした。（生物の生息環境を重視するエリア、利用を重視するエリア等について考える必要がある）



豊田市矢作川河川環境活性化プランの策定フロー

② 生き物の移動障害（本支川合流箇所）について

《生き物の移動障害》加茂川合流点の段差を対象に意見交換

- 加茂川の段差改善について、今ある土砂を活用して、木材を使った魚道設置の提案があった。

《提案・確認事項》

- 河川管理上の横断施設でもあることから、河川管理者でも設置の可否、方法について検討し、関係者間で調整を図ることとした。
⇒ 現在、簡易魚道設置に向けて、今年度中の設置も視野に入れて、関係者間で調整中。



加茂川合流点段差の状況

■運営方針に見る活動進捗状況

〈3ヶ年の運営方針〉
<p>① 生き物の移動阻害（本支川の合流箇所）について</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎調査を元にした現地調査の実施、カルテ（案）作成 カルテ（案）に基づく現状評価の実施（支川上流も対象）
<p>② 河床のアーマーコート化と近年後の変遷について（③とも関連）</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も総合土砂管理検討委員会、各ダム管理者との連携・情報共有を基本 可能であれば、詳細な検討の実施（例：必要な土砂の粒径など）
<p>③ 微地形の多様性（瀬・淵、ワンド）について（②とも関連）</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎調査を元にした現地現状調査の実施、カルテ（案）作成 カルテ（案）に基づく現状評価の実施（場と認識の共有） 可能であれば動態の技術的な検討 良い瀬淵・ワンドの維持・復元に向けた提言
<p>④ 在来種の減少について</p> <ul style="list-style-type: none"> 在来種の生息状況について情報共有を促進 WGメンバーで「本来、どんな魚や生物がいるべきか」を検討（情報資源活用）
<p>⑤ 外来種対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> 外来種の最新の動向について情報共有 外来種の駆除活動に参加し、WGメンバーで駆除方法等の改善を検討

〈活動進捗状況〉

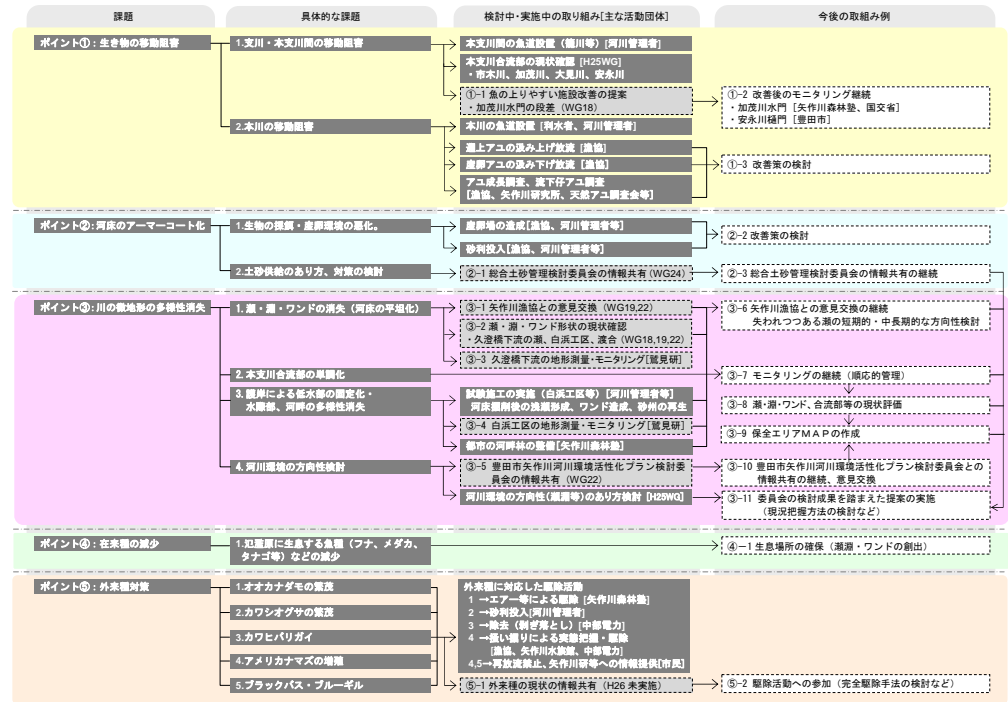
今年度は、白浜工区や久澄橋下流を対象に微地形の多様性について、優先的に検討を実施。

- 現地調査等により、微地形の多様性の現況把握を進めるとともに、矢作川漁協との意見交換が実現し、現状と課題の情報共有が進展。また、豊田市矢作川河川環境活性化プランの情報共有が進展。カルテ（案）作成については未着手。
- H.25年度に選定した加茂川合流点段差については、現地調査を実施し提案の方向性を確認できたが、カルテ（案）作成については未着手。
- 土砂管理検討委員会の検討状況について情報共有を行い、今後も意見交換を継続していくこととした。
- 河床のアーマーコート化、外来種・在来種についての検討には、進展なし。

■今後の活動（案）

- 白浜工区や久澄橋下流の地形状況のモニタリングを継続して、河道の応答状況を把握しながら、微地形の多様性を確保する方法を検討していく。
- 本支川の合流箇所や瀬・淵、ワンドのカルテ（案）の検討体制をつくる。
- 豊田市矢作川河川環境活性化プラン検討委員会と連携して検討を進める。
- 本支川合流検討箇所（加茂川合流点、家下川合流点）、渡合地区など本WGで提案した事項について、フィードバックする。

■本川モデルの「課題と解決の方向性について（案）」



(2) 家下川モデル

■今年度活動により分かったこと

① 生き物の移動阻害について

《生き物の移動阻害の実態》関係者からの情報共有により検討が進展

- 家下川湛水防除事業（上郷2期地区）の概略設計の検討状況について情報共有を行った。
- 家下川下流部は複数の管理者がいるため、管理者を含む関係者間の連携が必要であることを確認。（家下川：愛知県豊田加茂建設事務所、承水溝：豊田市農地整備課・土地改良区、長池：豊田市河川課）
- 魚道設置も選択肢の一つであるが、長池からの水量、各水面の連動性、承水溝－長池のゲートの位置づけがわかっていないことが課題である。



《提案・確認事項》

- 年度末に提供される検討成果を元に、関係者とともに承水溝－長池の段差を解消方法について意見交換を継続する。
- 承水溝－長池の段差を解消する方向性が望ましく、参考として水深 20 cm の確保を目指すこととした。
- 承水溝・長池・宗貞川付近の水位の連動性、長池の底の状況を把握する必要がある。

② 生き物の棲みかの不足について

《生き物の棲みかの不足の実態》

- 承水溝の生き物の棲みかの状況、棲みかを確保する方向性等について意見交換を行なった。
- 長池や承水溝（ポンプ場～宗貞川樋門間）に、公園の土砂が溜まって水深が浅くなり、魚は排水機場周辺の深みに集まっている状態である。
- 上郷排水機場の改修に合わせた承水溝浚渫の予定はなく、浚渫には事業費の確保が必要であることを確認。

《提案・確認事項》

- 生き物の棲みかを確保するためには浚渫が必要であることを確認。
- 事業費の制約がある中で承水溝を浚渫する場合には、承水溝全体に渡って所々に深い場所をつくる方法を提案する。

■運営方針に見る活動進捗状況

〈3ヶ年の運営方針〉	
① 生き物の移動阻害について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移動阻害箇所の情報収集 ・ 当面の段差解消方法の検討
② 生き物の棲みかの不足について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「草の植え付け」「水田魚道」「越冬マス」「ブロック水制・堰（越冬場所）」などの設置効果の確認 ・ その改良方法や他の場所への展開の検討
③ 水量不足について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水源（家下川、農業用水、地下水など）の情報収集 ・ 水量確保の様々な可能性の検討

〈活動進捗状況〉

今年度は、家下川 - 承水溝 - 長池の段差解消について、関係者とともに優先的に検討を実施。

- ・ **移動阻害箇所の情報収集**を継続し、関係者との意見交換を行うことにより、**段差解消方法について検討**を深めることができた。（具体的な検討を継続予定）
- ・ 生き物の棲みかの不足に対する**活動内容・効果の情報共有**することができたが、その改良方法や他の場所への展開については未着手。承水溝について検討し、棲みかを確保する方向性について提案した。
- ・ 水量不足については、進展なし。

■今後の活動（案）

- 承水溝－長池の段差改善や承水溝の浚渫の提案について、管理者と連携しながら、解決策を検討する。
- 水源確保については、より詳細な情報収集を進める。

■ 家下川モデルの「課題と解決の方向性について（案）」



(3) 地先モデル

地先モデルでは、一昨年度からの活動団体へのヒアリングを継続するとともに、活動団体を掘り起こし、広く活動団体の状況を把握するため、新たにアンケート調査を実施（計8団体から回答あり）した。

今年度の活動団体ヒアリングは、岡崎市で活動している「鹿乗川を美しくする会」、「鳥川ホテル保存会」、「青木川を守り美しくする会」、豊田市で活動している「梅坪水辺愛護会」を訪問し、活動団体の抱える課題について把握した。

■ 今年度活動により分かったこと

① 活動環境に関する課題について

《活動環境に関する課題の実態》

- 今年度は、ゴミ・不法投棄、B B Q利用、竹林の繁茂、水質汚濁、マムシなどの活動環境の課題が確認できた。



青木川の様子

《提案・確認事項》

- ゴミ・不法投棄は、場所を美しく保つことが抑止につながることを確認。
- 水質汚濁の問題は、行政と地域（活動団体）の連携が有効であることを確認。

② 活動推進上の課題について

《活動推進上の課題の実態》

- 活動推進上の課題には、主に「活動費」「人材」「設備・機材」「行政のバックアップ」の課題に整理できそうである。
- 草刈（美化活動）は、活動団体の基本的活動の一つであるが、刈り草の処理は活動団体によって対応が異なることがわかった。

《提案・確認事項》

- 活動団体と町会が連携することにより、「活動費」「人材」の課題を解決することが可能である。
- 矢作川研究所の協力を得て、(仮) 専門家リストのたたき台を作成し、WGでの意見を踏まえ改良を重ねているところである。



鹿乗川を美しくする会との意見交換の様子



岡崎市ホテル学校の視察の様子



梅坪水辺愛護会との意見交換の様子

■運営方針に見る活動進捗状況

〈3ヶ年の運営方針〉
① 活動環境に関する課題について
<ul style="list-style-type: none"> 地先の課題の抽出（活動団体、関係団体へのヒアリングも検討） 個別課題の情報共有と解決の方向性検討
② 活動推進上の課題について
<ul style="list-style-type: none"> 河川空間利用に関する調整（関係機関、市民意見の反映）の場の提供 （仮）専門家リストの作成・試行運用
③ モデル運営上の課題について
<ul style="list-style-type: none"> 地先の活動団体等のリスト化

〈活動進捗状況〉

今年度は、活動団体へのヒアリング、アンケート調査を優先的に実施し、活動上の課題を把握。

- 一昨年度に引き続き、岡崎市、豊田市の活動団体のヒアリングを実施。さらに広く活動団体の状況を把握するため、アンケート調査を実施。
- 個々の課題解決に向けて、ヒアリングを通じて意見交換を行うことができた。
- （仮）専門家リストのたたき台を作成することができた。
- アンケート調査により、矢作川流域に関わる地先の活動団体の裾野は若干広がった。活動団体等のリスト化は未着手。

■今後の活動（案）

- これまでの活動団体ヒアリングやアンケート調査を通じて把握できた地先の課題を集約し、地先の課題の全体像を整理する。
- 個別課題の検討の場や関係機関の調整の場の提供方法を考える。
- （仮）専門家リストは、今後、一般に活用できるリストとして充実を図る。

4. 他部会との連携における活動進捗

■運営方針に見る活動進捗状況

〈3ヶ年の運営方針からみる取り組み状況〉
<ul style="list-style-type: none"> 魚の移動阻害について、情報共有を行っていく。（山・海との連携） 生き物の棲みか（河床アーマーコート化、瀬淵など）に影響を与える土砂管理について、引き続き、情報共有を行っていく。（山・海との連携） 各部会が集まる勉強会等で情報共有し、流域全体のあり方を考える。

〈活動進捗状況〉

魚の移動阻害について、まず、川部会で検討できることを進めているところであるが、山・海との連携には至っていない。

総合土砂管理検討委員会の検討状況について、川部会で情報共有を行い、意見交換を実施。（今後も継続）

■流域連携に関わる活動進捗状況

〈活動進捗状況〉

市民企画会議の中で、ごみ・流木、土砂、木づかい、流域連携テーマとして市民が中心となって検討していくことを確認できた。

各テーマの主務担当者や検討方針、進め方について議論し、方向性を確認できた。

■連携に向けた今後の活動（案）

- 流域連携テーマについては、具体的な検討内容と進め方について、検討していくことが望まれる。
- 山・川・海が連携できる集まりの場で、各部会が認識している課題について共有を深める。
- とりわけ、土砂に関しては、まず川部会として求める土砂のあり方について、川部会における共通認識を得る。